

平成30年度地方創生推進会議における効果検証等概要

1. 【小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

地魚大作戦については、既にブランド化協議会というものを立ち上げており、目指す方向性が同じであることから、今後、調整を行っていく中で、かます棒など同じような取組を進め、魚のブランド化を推進していければと思う。地魚大作戦協議会の意向も踏まえながら、啓発していくという形を取りたいと思う。

2. 【地方創生関連交付金】

- ・小田原市と南足柄市の人口の減少について。統計担当には分析とまではいかないまでも、何か傾向などが見えないものかと思い、指示を出して検討させているところだが、なかなか状況が見えてこない。昨年あたりは過去の減少に比べてだいぶ減少が激しかったような感触はある。原因分析をすることは難しいのは承知だが、庁内関係課で連携して、分析をしていくことが大切である。
- ・人口減少の関係は、労働力移動の問題とか社会全体の問題もあると思う。市の分析よりもそういう専門機関を活用した分析を行うなど、学術的に分析した方が正確性は出てくるのでは。
- ・2040年までの人口推計をこの計画と合わせて分析してきた。その数値を全国の数値と比較した結果、2015年を基準として、一番近いところになるが、2040年で置いている数字が、全国の数値が87に対し、小田原市の場合はそれが81と、全国よりも推計値上6ポイント低いという状況にある。これは従前のトレンドと現在の変化を踏まえての数値だと思うのだが、特にこの中で年齢別に見ると、0から14歳が同じ年次で2015年対2040年で全国は75である一方で、小田原市の場合は65と、10ポイント下回っている。ここが特徴的であり、心配な部分でもある。交付金事業ももちろんそうだが、全体の施策の取りまとめをしていく中で、相当に意識をしていく必要があり、何がこの問題の解決に有効かという観点で考えていくことも必要である。